メーファールン大学医学部で特別講演を行いました（2015/9/2-3）

テーマ：拡大メコン川流域の医学教育と保健医療における協力
会場：Mae Fah Luang University School of Medicine（チェンライ、タイ）

2015 年 9 月 2-3 日(水―木)に、タイのチェンライにあるメーファールン大学医学部(MFLU)で開催された第 2 回メーファールン大学医学部国際学術シンポジウムにおいて江川新一教授が「2011 年津波と災害保健医療管理の経験」と題して特別講演を行いました。メーファールン大学はタイ王女の母君により貧困に悩む拡大メコン川流域の中心的な大学として設立され、9 月 24 日のマヒドールの日を祝い記念して開催される国際学術集会です。マヒドール王子はタイ国近代医学の父と呼ばれ人々の健康増進に生涯を捧げています。ASEAN 諸国のなかでも保健医療の新しい取り組みが始まっており、感染症をはじめ新しい医療ニーズに対して国境を越えた提携が進んでいます。高いレベルの協力には、医学教育の協力も不可欠です。また、拡大メコン川流域は地震・洪水・干ばつなどの災害が起きやすい地域でもあり、医学教育と保健医療の協力が重要な課題です。

1 日目のテーマは医学教育でタイ、オーストラリア、ネパール、ミャンマー、中国の医学教育の現状と課題について話し合われました。国の制度はそれぞれ違いますが、成人教育としての医学教育のあり方、科目ごとの教育から地域社会のニーズに応えるための教育への変化、教えるのではなく考えて学ぶための教育のあり方が話し合われました。日ごろ臨床研修指導医講習会で行っていることと全く重なっており、大変参考になるものでした。

２日目のテーマは災害医学で、日本、ネパール、ミャンマー、ラオスの巨大災害の経験がそれぞれ発表されました。江川新一教授は東日本大震災における保健医療対応と仙台防災枠組みについて講演し、シンポジウムのテーマでもある国際間の協力、クラスター間の協力、一般医療従事者と災害医療対応者間の協力の重要性を強調しました。ネパールからは 4 月 25 日のゴルカ地震における医療対応、ミャンマーからはサイクロンナルギスにおける経験と災害医療体制、ラオスからは国家的な災害医療体制とラオスにおける自然災害への対応が報告されました。会場からは、災害医療体制におけるリーダーシップのあり方、病院の防災訓練のあり方について活発な質疑応答がなされました。

拡大メコン川流域は、ゴールデントライアングルと呼ばれ麻薬の一大産地でしたが、タイ政府の取り組みと、民度の向上、高等教育施設の充実により麻薬の生産量は格段に減少し、麻薬不法産出国の汚名を返上しています。躍動する経済地域として今後の発展が期待されます。

広い会場を埋め尽くす MFL 大学の医療関係者

21 世紀の医学教育について講演するマヒドール大学医学部長

文責：江川新一（災害医学研究部門）